

Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East Bulletin

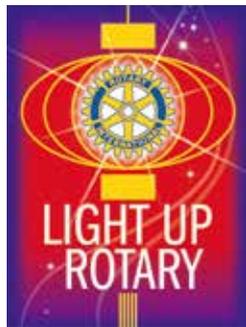
神戸東ロータリークラブ会報

No.376 2014-2015 No2

表紙絵：太原 震也元会員

会長／乙守 典厚 副会長／吉井 正幸 幹事／澤田 正樹 雑誌会報委員長／田中 義明 副委員長／弘田 芳裕
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「希望を抱いて 輝きを！」



RI President

ゲイリー C.K. ホアン
2014-2015年度国際ロータリー会長





袖振り合うも他生（多少？）の縁

一般財団法人 日本総合研究所 会長
多摩大学名誉学長

野田 一夫

人々間の意思疎通の元は言葉だが、言葉を構成する単語の意味の理解は、どこの国でも、世代間で程度の差はあれ異なるのは自然なことだ。とくに昭和時代のわが国のように、国運を賭しての長い戦いの末に完敗し、占領政策により憲法まで根本的に改正させられて国是を“国粹主義”から“民主主義”に改変までさせられたのに、思わぬ国際情勢の変化に恵まれ、国民が戦前とは様変わり的高度大衆社会を謳歌するようになってしまったような国では、同国民とは言え、戦前派と戦後派とでは価値観の差が大きいのは当然だ。だから、昔から人口に膾炙されてきた諺の意味の受け取り方なども、世代間でまるきり違ってしまったりするのは致し方ない。例えば、「袖振り合うも他生の縁」といった諺の“他生”も、戦後派の多くが“多少”と読み取ったりすることなどは、言わば自然なのだ。こんな時、相手の誤りをいきなり指摘して嘲笑なんかするよりは、「…面白いね、本来は“他生”なんだが…」とでも言って、“他生”の意

味を懇切に教えてやる方が遥かに年長者らしい。かのわが連合艦隊司令長官・山本五十六元帥の名言を真似れば、「興をそそり、説明し、納得させねば、人は納得せず」だ。





「輝く瞳に会いに行こう」

R I 3360 地区 北タイ・チェンライ RC

直前会長 **原田 義之**

1. 3足のわらじで「タイ北部の子供たち支援」

私は北タイ・チェンライ R I 3360 地区チェンライ RC 直前会長職、現地ダムロン高校のボランティア日本語教師、そしてミャンマー国境近くワヴィ村のアカ族子供寮「夢の家」の子供たちに就学&識字率向上支援を「国際奉仕を行動」し続けて6年目です。その体験談を基に講演をさせて頂きました。

今から21年前はロータリー入会5年目の所属ロータリークラブ W C S 委員長でした。バンコク出張中の折にホテルのテレビで、バンコクの奉仕団体が北タイ・チェンライの小学校の子供達へ図書寄贈する風景を見たのです。その映像に私は脳裏に越後長岡藩「米百俵」の話が過ぎると同時に、「そうだ、北タイ子供たちへの図書寄贈を」と考えました。

何故なら当時私が所属するクラブの W C S 主要事業は地元国際協会に10万円を届けることでした。私はこの10万円をタイで図書を買ひ、北タイ子供たちに届けたら、50万円相当の図書を子供たちに届けられると考えたのです。子供は貧乏でも、裸足でも構わない。輝く瞳から科学を、世界を、知識を身に着け、立派な青年になって欲しいとの私の思いから、早速北タイ・チェンライに飛びました。以来15年間36

小学校に図書配布を行いました。

2. 配本15周年図書支援会場でアカ族青年アリヤ氏との出会い

奉仕を続けて15年目に山岳民族学校へ特別配本を行いました。会場でアカ族青年・アリヤさんに15年振りに会いました。彼とは以前日本語通訳として出会いました。彼は私に会うなり涙ながらに「少数民族が抱える問題点」を語り「アカ族子供たちを助けて欲しい」と申し出たのです。

彼は子供たちが無識字のまま成長すれば、やがて麻薬の運び屋、売春、エイズキャリアの悪の予備軍になる現実を話してくれました。アカ族の子はアカ語のみを使い、学ばなければ「母国語・タイ語の無識字」のまま大人になり、マイノリティーから悪の道に身を染める子が後を絶たないのです。私は彼に「アカ族子供たちのために識字率向上支援」を誓いました。

3. 豊田武雄氏の出会いが64歳の私に一大決心を

私は同じチェンライで北タイ山岳民族支援をしていた豊田武雄さんに21年前に出会いました。彼は私に「貧困に向かい合い子供たちの目線に合わせた時、子供たちは奉仕の玉手箱を開けます。その輝きは、その奉仕をした者にしか見えない輝きです」と話してくれた。

64歳の私は現職を引き彼の言葉を信じ「奉仕の心を、奉仕を行動で」に舵を取りました。ボランティア日本語教師の資格に挑戦、夜はタイ語教室に通いアカ族子供寮「夢の家」最前線の町・チェンライの国立ダムロン高校でボランティア日本語教師をし、その傍ら子供たちに「識字率向上支援」を始めたのです。

学校からの報酬を一切絶ち「奉仕の人生」に転向し「奉仕を行動で」と「無欲の奉仕」を実践して6年になる。たった一度の人生に「契約社会の人生」と「奉仕の人生」の「二味人生」に生きる「幸せな生き方」を選択したのです。



4. 麻薬、売春、エイズから救うために「識字率向上」奉仕活動の始動

アカ族の歴史的背景が、彼ら民族にマイノリティーの影を落とします。私はアカ族子供寮「夢の家」で子供たちの母親識字率を調査し、アカ族母親識字率 56% が判明したのです。低識字率国の課題は婦人の出生数は 5 人を超え人口問題、食料問題を引き起こしています。世界には多くの低識字率国があります。

タイ国内でありながらアカ族成婦人の識字率 56% の問題は人口問題に加え麻薬、売春、エイズキャリア等の「悪の予備軍」を進行させています。なぜならここは歴史上、そして地勢上麻薬取引地帯で有名な「ゴールデン・トライアングル地帯」だからです。

アカ族子供達を「悪の予備軍」から救う唯一の近道は、地道だが「子供たちに就学と識字率向上支援」をすることと私は信じます。この輝く瞳のこの子たちを麻薬、売春、エイズキャリアの「悪の予備軍」にしてはならない。その思い一途に今日までの 6 年間で支援し続けてきました。そしてこれからも。

5. 私の生涯奉仕の原点とその先は

私の奉仕は終わりなく続きます。私の目の前のアカ族子供たちの就学・識字率向上に、私にとって使命がある限り「生涯現役」で、「生涯ロータリアン」として「行動する国際奉仕」で北タイ子供たちの支援をし続けて参ります。





米山月間に因んで

米山奨学委員会 委員長

三戸岡 英樹

ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリー独自の事業で、全地区による合同プロジェクトです。日本のロータリーの父、米山梅吉翁が亡くなったあと、その功績を永遠に偲ぶことができる事業をやるのではないかと、1952年、東京RCが「米山基金」の構想を発表しました。中心となったのは、当時の会長、「大連宣言」で有名な古沢文作氏でした。なぜ、外国人留学生への奨学金という事業が選ばれたのか、いくつか理由はありますが、「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてほしい」、「世界の人々と友情を育むことができるのだと証明したい」。こうした、当時の日本のロータリアンたちの強い思いがありました。東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。米山奨学生は年間約700人、これまでの累計で、世界123の国と地域から18,104人を支援しています。これは、外国人留学生を対象とする民間奨学金としては最大で、今後、海外からより多くの留学生を呼び寄せようとする日本の留学生政策にも大きく貢献しています。

昨年度の個人平均寄付額の全国平均は15,

200円、最も高かったのは、第2590地区(神奈川県横浜市・川崎市)の30,414円でした。当地区は一人平均13,207円、全国で第19位でした。米山への寄付金は大きく分けて2種類があります。クラブが決めた金額を会員数分送金する「普通寄付金」は、全国平均が4,679円に対し、当地区は4,617円でした。また、個人・法人・クラブからの任意の寄付、「特別寄付金」は、全国平均が10,521円、当地区は8,590円でした。先ほどの“個人平均寄付額”は、この普通寄付と特別寄付を合わせた金額です。特別寄付金の寄付者割合とは、会員の中で個人として特別寄付をした人の割合です。全国平均は41.2%、当地区は37.2%でした。滝澤ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1人当たり15,000円となっております。

中国米山学友会の初代会長であり、弁護士として活躍する姫軍(キゲン)さんが昨年、世話クラブの創立記念式典でスピーチした内容をご紹介します(抜粋)。

「(2012年、)中国全土で反日運動が始まりました。日本の店を潰す、日本のものを買わない、日本車を道に出すことも危ない。そのときに、うちの法律事務所は1つの通知を出しました。“世澤法律事務所がホットラインを作ります。もし日本人に身の危険や財産の危険があれば、このホットラインで無料で相談を受けます”と。通知を出す前に会議を開き、パートナー全員に話しました。「この通知を出せばわが法律





事務所は潰されるかもしれない。この通知を出すかどうか、みなさんが決めてください。みな全員一致で答えてくれました。「正しいことだから、やりましょう」と。結局、ホットラインが鳴ることはありませんでしたが、われわれは、強いメッセージを世の中に発信しました。「日本人の財産や身の危険から守ろうとする中国人が、中国の中にもいます！」と。2014年、うちの事務所は10周年を迎えます。初の海外旅行先として事務所が決めたことは、「日本に行く」ということです。タイやベトナム、台湾なども候補に上がりました。コストも安い。でも、日本へ行きます。事務所の仲間全員に、日本は本当はどのような国なのか、この旅行を通じてみんなに知らせたいのです。事務所の仲間だけではなく、その家族も連れていきます。なぜ私にこのようなことができるのか。東京臨海ロータリークラブの皆さんのおかげです。ロータリークラブの皆さんのおかげです。米山奨学金のおかげです」

いま幾つかの国との政治的関係が困難な状況ですが、このような時期であるからこそ外国の留学生への支援は必要ではないでしょうか。米山奨学事業にご理解をいただき特別寄付よろしく願いいたします。



米山奨学生 育瑤さんの報告



貝 沼 信 行

大和証券 神戸支店

私は昭和 37 年 8 月 23 日、名古屋市昭和区に生まれ現在 52 歳です。両親はともに新潟県出身ですが、私は住んだことがありません。父親が商社勤務で転勤族だったため、転勤先の名古屋で生まれました。その後、芦屋、浜松、西宮と引っ越した後、神戸に住み、大学は関西大学に通い、大和証券に入社して神戸支店勤務となりました。ちなみに、幼稚園は 2 つ、小学校は 4 つ、高校は 2 つ経験しており、入学と卒業が同じだったのは中学と大学だけです。

子供の頃は、カエルやヘビや虫を捕ったり、梨や柿やミカンを取ったり、基地を作って遊んでいました。中学ではテニス、高校では剣道をやりました。大学ではちょっと風変わりな旅行サークルに入りましたが、3 年の時に長野から青森まで徒歩 & 野宿で旅行したことが思い出です。公園やパチンコ屋の駐車場、農家の納屋や墓地、色々なところにテントを張って野宿しましたが、中央分離帯の芝にテントを張って怒られたこともありました。

大和証券に入社した理由は、株に関わりたかったことと、全国転勤ができるということでした。国内旅行好きなので、全国各地で生活してみたいと思っていました。入社以来、神戸、尼崎、梅田と 12 年支店営業を経験し、人事、経営企画を経て、戸塚支店長、銀座支店長、姫路支店長、金沢支店長、本店営業部長、仙台支店長、そして今回ダイワライフスタート地点の神戸支店長となりました。もっとドラスティックに北や南に行きたかったのですが、まずまず希望

通りのダイワライフとなっています。

株に関わりたいと思った理由があります。それは、私が小学 2 年生の頃、当時父親はお客様に影響されて株をやっていたのですが、ある日曜日に寝転がって株価欄をみていた父親のそばに寝転がっていたら、おまえもやってみるか誘われました。子供ですので左上の方からいくつか見ていきました。今でもはっきり覚えています。目に留まったのは、北炭 21 円、住友石炭 18 円、三井松島炭 16 円でした。当時、親の貯めた貯金が 2 万円程あったので、住友石炭を 1,000 株買ってもらうことにして通帳を渡しました。

それからは毎日、株価欄を見るようになりしました。そして小学 4 年の頃、私はイタリア西部劇マカロニウェスタンにはまっていて、どうしてもモデルガンとガンベルトが欲しくて、当時 140 円(14 万円)程になっていた住友石炭の売却を父親に依頼しました。その時、父親は申し訳なさそうに 2 万円の通帳を出してきたのです。あっけにとられるやら腹はたつわで、それ以来、強く株価を意識しました。今でも 83 歳の父親に「住友石炭返せ」と言っています。

プライベートでは、もう 5 年になりますが、マンネリ夫婦にビッグイベントがありました。5 年前に結婚 19 年目にして、突如、ファーストベビーに恵まれたことです。今は、単身を謳歌したいという思いと娘に会いたいとの思いの狭間で悩んでいます。

投資について少しお話しします。相場に勝つ方法ですが、安く買って高く売る、これだけです。でもほとんどの方ができません。そこで、是非、「奉仕の心」で投資してみても如何でしょうか。皆が買って欲しいと思う時(売りたい時、安い時)に買ってあげる。皆が売ってほしいと思う時(買いたい時、高い時)に売ってあげるということです。又、効果的な投資手法として分散投資を是非お勧めします。投資対象の分散と時間分散です。今、話題の NISA を使えば簡単に 2 つの分散投資ができます。

新規開拓に明け暮れ、多くの経営者の方々に育てていただきました神戸で再び仕事ができることをうれしく思います。又、当時は想像もしていなかった、伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入れたことをうれしく思っています。どうぞよろしくお願ひします。



中田 勝彦

日立製作所 神戸支店

日立製作所の中田でございます。6月17日に三富商店の木下会長様と有古特許事務所の角田会長様のご紹介で、この伝統ある神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました。本日は、自己紹介のお時間を頂戴致しましたので、私の略歴や仕事のことをお話したいと思えます。

私は、1965年(昭和40年)10月9日に生まれ、来月で49歳になります。生まれた場所は茨城県の日立市です。なぜ日立市かというと、父が日立工場に勤務していたからです。私が一歳の時ですから、生まれ故郷の記憶はありませんでした。入社後、工場実習の機会があり、初めて日立市を訪れましたが、聞いていた通りの企業城下町でした。

満1歳の時に父が大阪に転勤となり、大学を卒業するまで宝塚で育ちました。幼少のころは、武庫川の河原にて手づかみで魚を捕ったり、ご近所の塀をよじ登り、人様の庭にある枇杷を食べたりと日が暮れるまで遊んでいました。幼少の頃は身体が弱い方で、その為かわかりませんが、親が神戸フットボールクラブに申し込んで、サッカー教室に通っていた時期もあります。父に連れられ、神戸高校のグラウンドでドリブル練習をしていた記憶が残っています。中学、高校もサッカー部に所属していました。

大学から甲南に入りましたが、何を学んだのかあまり覚えていません。友人とサークルをつくり、スキーやテニスといった遊びに興じていました。そんな学生がなんとか就職できたのは、たまたま景気が良かったからだと思っています。いわゆる「バブル景気」です。

昭和から平成に変わった年、1989年に日立に入社しました。配属先は関西支店の情報システム営業でした。当時は大型の汎用コンピュータが中心で販売形態もレンタルでした。その当時はかなり高価なもので、ソフトウェアも含めて月額数千万はしていました。私は商社や鉄道会社といった流通サービス業のお客様を担当し、熱血営業マンの上司から、「注文を取るまでは会社に戻るな」とか「ビルを見たら他社のコンピュータがあると思え」と指導され、アポイント無しでの飛び込み訪問も経験しました。現在はITが進化し、クラウドによるサービス提供が主流となりましたが、いかにして企業の経営課題を解決するかという本質は変わりません。

4月に神戸支店に異動となりました。日立の神戸支店は、1977年(昭和52年)栄町の福山ビルに兵庫営業所を開設して以来、今年で37年になります。神戸支店長は私で9代目となります。

プライベートは、家族は妻一人で、子供はおりません。趣味は一向に上達しないゴルフです。話しは変わりますが、日立製作所の創業者である小平浪平の回想録で実は熱心なロータリアンであったということを知りました。昭和2年に入会し、社会奉仕委員長として時々孤児院慰問を行っていたそうです。偉大な創業者には程遠いですが、あらためて自分自身がロータリアンであるという事を誇りに思った次第です。

最後になりましたが、神戸東ロータリークラブに入会させて頂いたからには、何らかの形で神戸のお役に立ちたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



吉田 博

司法書士 吉田 博事務所

私の自宅も司法書士事務所も神戸市須磨区にございまして、家族は、妻一人、子供三人、孫四人です。一番目と二番目の二人の孫は男の子と女の子の双子ですが、双子であるにもかかわらず、顔も体型も性格もまったく異なっていて、見ていて大変に面白いです。この双子は毎日喧嘩をしています。全員が須磨区に在住しておりますので、孫がしょっちゅう遊びに来まして、かわいいのですが、私の方は多少疲れ気味です。疲れを知らない孫の生命力には、対処出来ない状況です。

司法書士事務所は、地下鉄名谷駅前の名谷センタービル7階にありまして、私を含め司法書士二人、社会福祉士一人、事務員一人の四人体制で運営している小さな事務所です。成年後見をライフワークとしておりますので、成年後見事務を中心に業務を進めています。勿論、不動産や商業登記業務や、破産手続き等の債務整理、簡易裁判所の訴訟代理業務、民間調停手続きであるADR等も行っております。

私は関西大学法学部を卒業してからすぐに試験に合格して、以来約40年間司法書士をしております。従いまして、良く言えば、“この道一筋”、悪く言えば、“世間知らず”と云うこととなりますでしょうか？司法書士とはなかなか面白い職能で、又、恵まれた仕事であります。開業当初は、登記手続きを中心に業務を行ってまいりました。当初は高度経済成長期が終了して、日本は安定期に入りそしてその後バブル経済期を迎えることとなります。バブル期が終焉して不況期が到来することとなります処、司法

書士は、好景気の時には、登記業務で、不況期には、債務整理の仕事が爆発的に増加したり、債務整理が落ち着くと、社会全体の高齢化が急速に進み、成年後見業務、相続財産管理業務を担うことになりました。70歳になっても、80歳になっても、認知証にならない限り、仕事が出来ると云う有難い職種であります。

さて、私は、丁度二年前の平成24年9月25日に、この会場の、この場所で、「無縁社会と成年後見制度」と言うテーマで30分の卓話をさせていただきました。今日その続編を、お話をさせていただこうと思いついたのは、先月8月31日に、神戸学院大学のポートアイランドキャンパスにおいて開催された2680地区の青少年奉仕セミナーに参加し、篠山や龍野ロータリークラブの青少年を具体的に育成されている実情を始めてお聞きし、ロータリークラブの社会貢献活動の一端が理解出来たからであります。ロータリークラブはこんな活動もしておられるのかとある意味感動を覚えました。司法書士職能も社会貢献する職能だからです。

無縁社会とは、血縁が無くなる、地縁が無くなる、社縁がなくなることです。無縁社会とは単身世帯が増えて人と人との関係が希薄になっていく社会のことで、この無縁社会の課題は、自殺と孤独死です。私は、“無縁社会”を解決する一つの法制度が成年後見制度であると理解しており、これからも真剣に取り組んでいきたいと考えております。

最後に、入会を契機に心に響くことばを思い起こしましたので、ご紹介いたします。それは、「蒼蠅驥尾に附して万里を渡り碧蘿松頭に懸りて千尋を延ぶ」です。

蒼蠅（そうよう）とは、あおばえ、です。驥尾とは、一日に万里を走ると云われている中国古代の名馬のしっぽです。名馬のしっぽにしがみついたら、蠅であっても万里を走ることが出来るのです。碧蘿（へきら）とは、みどり色のかずら、かずらとは蔓草（つるくさ）の総称です。つるくさであっても、松の幹や枝を使って伸びていけば、松のてっぺんにまでいけると云うことです。蒼蠅、碧蘿が私のことであり、驥尾、松頭が神戸東ロータリークラブのことです。云うまでもありません。神戸東ロータリークラブのしっぽに食らいついていけば、蠅である私でも多少は社会貢献、職業奉仕出来るのではないかと考えております。



塩谷 雅英

英ウィメンズクリニック

この度、野田晴清様ならびに澤田正樹様のお二方にご推薦頂き、伝統のある神戸東ロータリー倶楽部に入会させて頂きました塩谷雅英です。自己紹介を兼ね一言ご挨拶させて頂きたいと思ひます。

私は、1958年8月15日 神戸市長田区の山の手というよりも山の上で生を受けました。自宅ベランダからは瀬戸内海、そして天気の良い日には、紀伊半島まで見えました。幼稚園は、長田神社のすぐそばにあった「光の子幼稚園」に通いました。その後、池田小学校、神戸市立西代中学校、兵庫県立長田高等学校と進みました。長田高校では硬式庭球部に所属し、インター杯出場を夢見て練習に明け暮れましたが甲南高校、報徳学園、関西学院の厚い壁に阻まれ、夢を実現することは出来ませんでした。

高校卒業後は、日立機電工業で機械の設計をしておりました父親の影響かと思ひますが工学部を志望し、北海道大学に進学しました。北大入学後は、恵迪寮に入寮しアイスホッケー部に所属するなどして青春を謳歌しておりましたが、医学部の友人、先輩などと語り合ううちに、医学に魅力を感じるようになりました。そうこうするうちに大学2年生の秋には単位が足りず留年が決まり、この留年をきっかけに、退学および医学部再受験を決意しました。北海道大

学の担任教授に退学を申し出たところ、「受かるかどうか分からないからとりあえず籍はおいでおいではどうか」と言っていました。有り難うございました。

幸い昭和54年、島根医科大学に合格することができました。今は亡き祖母に、「医者になるならまじめに勉強しなさい」と言われ、北海道大学ではあまり勉強しなかった分も取り返すべく真面目に勉強しました。

島根医科大学卒業後は、京都大学医学部付属病院産婦人科で研修をし、その後、福井赤十字病院産婦人科、兵庫県立塚口病院産婦人科、神戸市立中央市民病院産婦人科勤務を経て、2000年3月には、神戸市垂水駅前レバンテ1番館2階に、不妊治療専門のクリニック英ウィメンズクリニックを開院しました。2004年4月には、神戸市中央区三宮町1丁目にも開院、現在は、垂水と三宮の2施設で不妊症治療を専門とするクリニックで診療を行っております。

よく、「なぜ産婦人科を選んだのですか？」という質問を受けます。医学部の学生は大抵4年生になると将来の進路を考え始めます。私の場合、4年生の時には将来内科医になりたいと思っておりました。当時私は、若い新米の内科医師がイギリスの炭坑町に赴任して失敗しながらも成長していく様を描いたA.J.クローニンの著書を良く読んでおり、その影響を多大に受けておりました。日本で初めての試験管ベビーが誕生したというニュースが流れたのはこの頃でした。このニュースに接して、とてもわくわくする気持ちになったことを覚えております。医学部5年生になりますとポリクリが始まります。「ポリクリ」とは、日本語では「臨床実習」と申しまして、実際に教授が患者さんを診察する現場に立ち会わせていただき、現場で学ぶものです。それまで、教科書でしか学んだことのない知識を実際の患者さんを目の前にして学ぶこととなりますので、学生も皆気合いが入ります。この「ポリクリ」では基本的に全科を体験します。メジャーと呼ばれる、内科、外科、小

児科、そしてマイナーと呼ばれる脳外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理科、などです。このポリクリを通じて私はいつしか、外科医に憧れるようになりました。手術室でメスをふるう外科医がとてもカッコ良く思えたのです。そして、医学部6年生になっていよいよ進路を決めねばならなくなった頃の事です。産婦人科の実習で帝王切開に立ち会う機会がありました。この時、お母さんのお腹から元気な赤ちゃんが生まれて「おぎゃー」と泣いた時、そしてお母さんがとても嬉しそうにする姿を見たときに、すごく感動しました。いつしか、内科や外科ではなく、試験管ベビーという新しい不妊症医療、そして、新しい生命の誕生に立ち会うことのできる産婦人科医になりたいと思うようになっていました。

以上が産婦人科を自分の生涯の仕事として選んだ理由ですが、実際産婦人科研修医として、大学病院に勤務するようになってからは無我夢中でした。お産は時間を選びませんので、深夜何時でも関係無く勤務があります。一睡も出来なくても、翌日は普通に勤務があります。当時はまだ、産婦人科医の勤務が過酷である実態は喧伝されておらず、これが当たり前でした。しかし、いつしか産婦人科の医療現場の状況を垣間みた医学部の学生が産婦人科を敬遠する風潮が広まり、現在産婦人科医の不足が深刻となっています。最近、このような産婦人科医の勤務を緩和する方向に世の中が動いておりますが、まだまだだと思います。私は、現在不妊症治療を専門としており、お産には携わっておりませんが、お産に携わっている医師のみならず、助産師を含めた医療スタッフの皆様には頭の下がる思いをしております。

以上長くなりましたが、自己紹介のご挨拶とさせていただきます。





「秋の京都で伝統京料理を楽しむ会」を開催



平成 26 年 10 月 19 日（日）、神戸東ロータリークラブ日帰り家族旅行として「秋の京都で伝統京料理を楽しむ会」を企画いたしました。「京懐石美濃吉本店竹茂楼」にて総勢 58 名の参加を得、ご家族とともに秋の京都を楽しみました。2014 年は日本の伝統的食文化である「和食」がユネスコ世界遺産に登録されたことや、「京都」が世界の観光地ランキングで第 1 位となったこと等、時期的に非常にタイムリーな企画であったと思います。当日は台風一過で秋晴れの素晴らしいお天気で、其々のご家族等で思い思いに秋の京都を 1 日楽しまれた事でしょう。前日から京都入りして楽しんでいただいていたグループもあったようです。

竹茂楼では、食事の前に、第一部として、京都女子大学の西尾久美子教授による「京都花街に学ぶ、おもてなしの仕組み」についてミニ講演会が開催されました。京都で 350 年に及ぶ歴史に基づいた花街の経営の極意を学び、その

後、第二部では、京都花街のひとつである祇園の芸舞妓 7 名とともに、懐石料理と伝統京芸能のおもてなしを堪能致しました。おもてなしの仕組みについては一般の事業経営に参考になるところも多く、目からうろこの会員の方も多かったのではないのでしょうか。また花街とは日頃縁の薄いご婦人の方々には、花街の芸舞妓の裏事情のお話は大変興味深いものであったのではないかと思います。

竹茂楼のお料理は、言うに及ばず大変素晴らしく、季節感満杯かつ繊細な和食の粋を極めたものでしたし、またワインについても、乙守典厚会長がフランスブルゴーニュで入手された、ラベルも会長の名前入りの特別仕様 2009 年ヴィンテージの「オスピス・ド・ポーヌ」を味わうことができました。最後には全員で記念写真撮影で締めくくり、和気藹藹ムードのまま皆さん笑顔で帰路につきました。

（家族委員長 多田 善計）





“心の扉を開くハーモニー” 就労支援の為のコンサート



平成 26 年 11 月 26 日水曜日神戸市立青陽東養護学校において就労支援の為のコンサート“心の扉を開くハーモニー”を開催致しました。神戸東ロータリークラブ合唱団が子供達と一緒に歌い踊り、またアカペラグループ Q.T. Honey を招いて子供達の誕生日を祝ったり歌ったりのコンサートをおこないました。

過敏症で楽器の音さえ聞けなく人の声だけは聞ける状態の生徒がいる中、どうすればいいか？何をすればいいか？どうすれば就労支援になるかを考えた結果、声だけで楽器を一切使わずコンサートを開くことを決定致しました。生徒達に就労意欲を高めることが就労支援の一助になると考えたのです。地域として就労企業と就労意欲の増加を求め中、声だけでもこんなことが出来るという事で、色々な分野に人間の可能性があることを理解させ自分自身の可能性を自覚し就労意欲を向上させようと考えまし

た。協調性の足りない生徒達や自閉症の生徒達と一緒に歌い踊り手を取り合って喜ぶことで、一人よりも多くの人達と接する方が楽しいと感じて欲しかったのです。また、声でドラムの音を出したりベースの音を出したり人には色んな力があり一人で歌うよりも大勢で歌った方が凄い事ができるということを感じてもらえる事が出来ました。

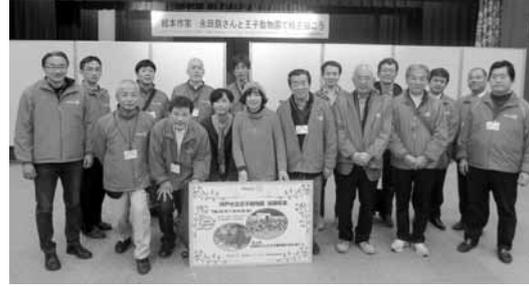
当日、生徒達も本当に楽しく歓声を上げたり一緒に歌ったり踊ったりと誕生日の生徒が生徒達の中にまじり歌でお祝いをしたり大盛況の内に終了する事ができました。少しでも生きる喜びと活動する力を喚起出来たのではと思っております。

ご協力いただきました神戸東ロータリークラブのメンバーの皆様そして神戸東ロータリークラブ合唱団の皆様ありがとうございました。

(社会奉仕委員長 吉田 茂)



「絵本作家 永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」を後援して



平成 26 年 11 月 30 日（日）に王子動物園で開催された、「第 3 回 絵本作家 永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」の行事を、当クラブが後援しました。

この行事は、3 歳から小学 6 年生までの子供たち 100 人を招待し、絵本作家の永田萌さんから個別に絵画指導を受けることにより、子供たちが絵を描くことの楽しさを実感し、豊かな感性と創造力を育む機会とする。また動物の絵を描くことにより、動物の特徴や性格の一端を知り、動物保護に取り組む動物園の役割と環境保護への理解を深めていただくことを目的として開催されたものです。

この行事の開催に当たっては、人気絵本作家の永田萌さんのスケジュールを早めに押さえていただくため、および昨年度は 11 月初旬の 3 連休に開催したため、参加希望者が激減したという反省を踏まえて、動物園側の観光シーズンを避けたいという事情や、当クラブの行事予定も考慮して、2 月から連絡を取りあい、3 月には 11 月 30 日開催という日程を決めておりました。その後、当クラブでの他の行事予定が 11 月の最終週に集中し、11 月 24 日からの 1 週間が当クラブのロータリーウィークと名付けられ、そのロータリーウィークの締めとなる行事となりました。

当日を迎えるまでは、天気予報を気にしつつ、

前日の土曜日に降った雨が日曜日まで残らないかと心配しましたが、当日の午前中は快晴とも言える天気で、招待された子供たち（応募者総数 176 人から抽選で決められた 100 人）もほぼ 100%の参加率で、その保護者も加わり、大勢の参加者となりました。

当クラブからは、三役を始めとして、総勢 18 名が、参加者全員がトラブルなく写生ができ、永田萌さんと、そのお弟子さんでイラストレーターの菅野翔平さんの個別指導が受けられるべく、見守るためのボランティアとして活動しました。朝の 8 時 45 分集合で、午後 3 時半解散という長丁場でしたが、永田萌さんに指導を受けて笑顔の子供たち、およびその保護者の皆さん、子供たちの絵を見て笑顔の永田萌さん、菅野翔平さん、その光景を見て笑顔の動物園のスタッフの皆さんのおかげで、疲れも感じない楽しい日を過ごさせていただきました。

両先生の講評と当クラブ会長、乙守典厚さんの挨拶の後、参加者全員の記念写真撮影を終えて解散した後、帰り際から降り出した雨も気持ちよく感じられた一日でした。

改めて、王子動物園広報担当の真鍋太希さんを始めとする動物園スタッフの皆さん、永田萌さん、菅野翔平さん、神戸東 RC のボランティア参加の皆さん等関係各位に感謝申し上げます。

（青少年奉仕委員長 榊原 志朗）



宝塚歌劇団の卒業生とともに 忘年家族会が盛大に行われました



神戸東ロータリークラブ 2014～15 年度忘年家族会を平成 26 年 12 月 16 日にホテルオークラにて開催いたしました。今年度乙守会長のテーマ「希望を抱いて 輝きを！」を少しでも形に表せる内容を考慮して企画しました。

オープニングは恒例のコラス同好会・睦会コーラスのいつ聞いても素晴らしい歌、今回は「世界にひとつだけの花」「上を向いて歩こう」で始まりました。

そして会長テーマの一環として劇団創設 100 周年を迎えられました宝塚歌劇団の卒業生で現在も元気に活躍されている「優ひかり・桐さと実・ジュネスの四名の方々」をお迎えし、いつまでも若々しい歌声を聞かせていただきました。100 年を迎えた歌劇団、我がクラブも前期に創立 60 周年を迎えました。いつまでも輝きを失わず存続することは素晴らしいことです。そのヒントになる何かを感じることが出来たと思います。

もうひとつは多くの会員の皆様のご好意により出展していただきました賞品で恒例の「お楽しみ抽選会」を開催いたしました。沢山の楽しい賞品が有りましたが、その中で会長賞の「ゴージャス！カップルでいく台北 3 泊 4 日の旅」は見事佐井会員がゲットされました。そして抽選券の売上金は 212,000 円にもなりました。そのご好意はロータリー財団と米山奨学会に寄贈させていただきました。これも楽しみながら奉仕活動ができるクラブの良い伝統行事だと思えます。勿論当たった会員の方々からたくさんの「ニコニコ」もありました。

最後に今回は特別に乙守会長のご好意による特製ワイン「オスピス・ド・ポーヌ」を楽しむことも出来ました。大変上品な香りで味わい深い一品でした。美味しいワイン・お酒に美味しいオークラの料理で楽しい時間が年の瀬に持てましたことを報告いたします。

(家族委員会 田中 健三)





神戸東 RC 震災 20 年を迎えて

高嶋良平 会員

初例会欠席いたしましたので、改めてご挨拶申し上げます。

皆様、明けましておめでとうございます。

本日は「震災後 20 年を迎えて」との演題で、震災当時のクラブの話をさせていただきますが、なにぶんにも 20 年前の事でもあり、記憶も定かでない部分もあり、記憶違いがあれば、どうぞご指摘ください。

まず初めに、わがクラブ創立当時の例会場からお話しさせていただきます。

皆さんご承知の通り、昭和 29 年 3 月 9 日に我がクラブは、「ニッケグリル」これは、大丸の東側の「ニッケビル」にあったレストランですが、ここで神戸 RC をスポンサーとして創立総会を開催し、以後、例会場として使用してきました。当時、神戸 RC の例会場は「オリエンタルホテル」です。昭和 30 年 9 月 30 日に神戸西 RC が創立し、神戸市内には 3 RC となった昭和 31 年 8 月 10 日に、「ニッケグリル」において第 1 回「ほろにが会」が開催され、毎月 1 回開催することが申し合わされました。我がクラブの 5 年史及び 10 年史（昭和 31 年～昭和 39 年）の年表には、毎月ほろにが会開催と記載されていますが、20 周年誌以降は、ほろにが会の記載はありません。これは、昭和 40 年後半く

らいから一時休眠状態になったようです。のちほど、ほろにが会については追加しますが、「ニッケグリル」がほとんど会場でありました。

又、新年の初釜ですが、「ニッケグリル」時代は、初例会終了後、川島会員のお父さん時代ですがお点前の奉仕があったとのことでした。

創立 3 年目の昭和 32 年 1 月に、震災前の神戸国際会館に例会場を移転するのですが、移転に関しての問題点が議論されました。

「ニッケグリル」は、交通の便は良いのだが、

会場が手狭である事。クラブのテリトリー内でない事。ビジターフィーでの食事代が一人当たり 20 円赤字である事。国際ホテルの

食事はどうか、待合スペースはどうか。「ニッケグリル」に義理がある。などの議論がなされ、

の赤字については、国際ホテルの支配人もク

ラブに入会勧誘して、食事代については解決を見ました。又 については、ホテルとして申し

分なく問題はありませんでした。 ついては、自動的に解決されました。

問題は、「ニッケグリル」に対してです。これは神戸西 RC も例会場難であったので、我がク

ラブより話をして、当時「中の島県水産会館」より「ニッケグリル」に移転することで「義理」

が果たせました。そして昭和 32 年 1 月 8 日初例会より国際会館に移った訳です。正式には、

国際会館 8 階国際ホテルです。この時から、初釜は、例会前に実施されるようになりました。

国際会館での例会場は、震災まで 38 年間我がクラブのホームグラウンドとなった訳です。

この間には、いろいろな事がありました。昭和 45 年 6 月 29 日、我がクラブがスポンサー

の神戸東灘 RC が、そして昭和 62 年 10 月 6 日には、神戸六甲 RC の創立総会が開催されまし

た。特に、神戸東灘 RC の例会場は、同じ国際会館となり、事務局も我がクラブと共同使用と

なり、当時事務局員として、橘さんと、天野さんがおられ、天野さんが東灘 RC の担当を兼務

することになりました。

国際会館時代には、ロビーにバーコーナーが



あり、例会前にカウンターで軽く一杯される会員がおられ、その延長線でここもバーコーナーが受け継がれています。一方「ほろにが会」ですが、先に申し上げました、昭和 40 年代に休眠状態でありましたが、昭和 53 年 12 月 21 日に、国際会館で復活第 1 回ロータリーほろにが会が開催され、夏はアサヒビール西宮工場、冬は北野クラブでの開催が定番となりました。現在カウントされています、本年度は 74 回となりますのは、復活からのカウントです。

震災時のほろにが会は、8 月 3 日に我がクラブが当番として、西宮までの交通アクセスがなかったため、当オークラで開催し、震災後初の市内ロータリアンの集いとなって 120 余名の参加を得て盛会な会となりました。本年の「ほろにが会」当番は我がクラブですが、20 年の節目として因縁を覚えます。

ここからは震災です。

当時の会長は、光葉会員、副会長は、西宮会員（退会）幹事は、沓脱会員（退会）の 3 役さんで、私は副幹事でありました。

震災の前日、1 月 13 日～16 日まで、クラブの家族旅行で 2 班に分け会員 35 名、家族 37 名計 72 名が香港旅行で、16 日に全員帰国された明るる日に大震災が発生しました。私の会社も被害を受け、火曜日でありましたがロータリーどころではなく、被害の対応に追われていました。後日談ですが、この震災でも国際会館に例会に来られた会員がおられたと聞きましたが、



どなたかは聞いておりません

ここからは、沓脱幹事のクラブ活動年次報告のあとがき [50 周年誌にも記載] に沿っての当時の説明です。

1 月

沓脱幹事は、まず会員の安否確認をされ、60% の消息を T E L が通じない中奮闘され確認されました。ガバナー事務所との諸連絡、3 月の地区大会中止。国際会館が 2 月 5 日に立ち入り禁止になるとの情報など 3 役に連絡。

2 月

2 月 1 日に月岡（退会）、村田（退会）、田中（健三）、須藤、大社会員、とで、事務局の荷物搬出。大変危険な作業で全部持ち出せなかった。新例会場候補として、新神戸オリエンタル、ポートピア H、オークラ、メリケンオリエンタル等に例会場としての交渉をする事となりました。

2 月 7 日定例理事会を西宮副会長の会社で開催。2 月まで休会。下半期の会費免除。

3 月 7 日より自主例会。事務局を幹事の会社に移転。事務局員減員。新会場については、幹事・副幹事に任ず。これらを決定する。事務局保管書類を光葉会長倉庫に保管願う。特に自主例会の会場には、当時会員であられた、関西西宮信用金庫会長の田端さんの計らいで本店のかんしんホールを貸していただくことになりました。

自主例会は、服装は自由で、みんな震災ルックでした。食事代は受益者負担で 1,000 円の弁当でしたが、2,000 円の会費制としました。

3 月 7 日（77 名）28 日（53 名）4 月 18 日（67 名）までかんしんホールで開催。

又、2 月 11 日堺泉北 RC より救援があり、王子スポーツセンターで、光葉会長夫妻はじめ、社会奉仕委員及び奥様方の 15 名と共に（50 周年誌 P265 写真有）炊き出しのお手伝いをされました。

事務局員の削減は、東灘 RC とも相談し、天野さんに申し渡しを沓脱幹事が行うことになり、あとがきに「2 月 27 日 今日 1 日沈んだ日



となる。天野さんにお昼 J R 芦屋駅山側ベンチで会う。デートならいいのに悲しい別れを伝える」と記しています。

新例会場交渉ですが、ポートピアは、液状化現象で復旧が遅れていて新神戸オリエンタルは、無傷状態だったのですが、賃料や事務室の交渉が難航しました。メリケンパークオリエンタルは、7月開業の予定で新ホテルでしたが、交通アクセスが悪いという事で断念し、オークラについては、理事会では第1候補でしたが、国際会館が復興した場合に「もどに戻るべき」との意見もあつたりしましたが、オークラとの交渉で、10月まで震災特別料金が付き、最終オークラに決定し、5月からはオークラで毎週でしたが、まだまだ会員皆さんの会社が大変であろうとの事で、自主例会としました。5月9日(58名) 14日(不明) 16日(32名) 23日創立記念例会(77名・夫人34名・会費2,000円) ロータリー関係の備品の新調や、封筒、メイキャップカードなど沓脱幹事が一人で段取りされ、自主例会中の週報も「例会報」として、原稿は週報委員会でしたが、それをワープロ作成、コピー、発送も沓脱幹事がされたことは頭の下がる思いでした。

そして、6月6日より正式例会として再開したわけです。下半期の年会費を免除にしたため、臨時総会で基本金400万円の取り崩しの承認を受けたり、震災被害による出席免除の話も出ましたが、幹事・副幹事で説得することになりましたが、期首131名の会員数は、病气死亡・

転勤・一身上の理由で17名退会。新入会員は12名となり、期末会員数は、126名でした。被災した下半期のロータリー活動は、唯一堺泉北RCとの救援活動の社会奉仕のみとなり年度を終了しました。

ちなみに 近隣クラブの例会状況ですが。
我がクラブは、1~2月 休会 3月~5月 自主例会 例会再開6月より
神戸RC 3月から生田神社会館で例会再開、9月よりポートピアホテルに移転
東灘RC 4月から自主例会 平生記念館、7月からそごう大食堂例会再開、9月から神戸ベイシェラトンホテルに移転
神戸北RC 4月よりハーバーランドホテル ニューオータニに移転 例会再開
六甲RC 3月に1回、4月2回の自主例会 5月から例会再開
ベイRC 4月以降月2回、7月~8月まで毎週 出席ノーカウント9月通常
南 RC 3月例会再開 西村屋 4月まで5月 ポートピアホテルに復帰
西 RC ホテル復旧まで休会 3月17日より例会再開
中 RC 復旧を待つ自主例会 6月例会再開





「ロータリー理解推進のために」

R I 2680 地区研修リーダー
パストガバナー 久野 薫

皆さん今日は。今月は「ロータリー理解推進月間」ということで、その為のお話をいたします。尚、来年度から、つまり今年の7月からロータリーの特別月間は大きく変更され、この「ロータリー理解推進月間」はなくなります。

知識より心を

今年度、地区研修委員会では「ロータリー検定」問題を使った出前セミナーが企画されています。早晚クラブの皆さんにも取り組んでいただくことになるかもしれません。しかしこれはあくまでロータリーに関する知識の問題であります。ロータリーにとって「手続要覧」に記載されているような片々たる知識の集積はそれほど大切なものではありません。しかし知識は知っていて邪魔になるものでもありません。学んでいただきたいと思えます。それよりも大切なことはロータリーの根っこにあるもの、ロータリーの真髄と言いますか「ロータリーの心」といったものが大切であります。

「ロータリーの心」とは何でしょうか。特別のものでしょうか。人間の心と「ロータリーの心」とは違ったものなのでしょうか。本日はそのこととお話ししたいと思います。

人の心の進化

私がガバナーを務めた時のR I会長はインド出身のカルヤン・パネルジーさんでした。そしてR I会長テーマは「心の中を見つめよう、博愛を広げるために」でした。人間の心とは「四無量心」という慈悲喜捨の心だと本クラブの会員、高橋恵俊さんに教えていただきました。その時のR I会長テーマのロゴマークは心の所在としての心臓をかたどったものでした。古くから心の所在については議論の多いところでした。アリストテレスは心臓に、その師匠プラトンは脳に、古代中国人は内臓に求めたと言います。17世紀のフランスの哲学者、数学者ルネ・デカルトは物心二元論を広めました。私たちの体は肉体と心の二つからできているという考えです。そこで心の重さを図った人がいます、アメリカ、マサチューセッツ州の医師でダンカン・マクドウガルという人です。人と犬を使って死直前と死直後の体重の差を図るといふ乱暴なものでした。結果、魂の重さは21グラムでした。一円硬貨21枚、500円硬貨3枚が21グラムです。そして2003年映画「21グラム」の題材にさえなったのです。勿論今では誰も信じてはいません。いつごろから人間の肉体に心が宿ったのでしょうか。高々2～3万年前のクロマニオン人になってからと言われます。死んだ同胞を葬るという淡い心のようなものが芽生えたといえます。そのクロマニオンでさえマンモスハンターの異名を持っていたのです。人類の進化は攻撃性による自然淘汰でありました。攻撃性の優れたものが生き残ったのです。神はこの人間に理性を与えました。人間愛の誕生、心の誕生であります。そして今日の人道的奉仕という広い心までに進化したのです。

ロータリーの心

話を本題に戻して ロータリーの心とは何かを考えてみましょう。

昔、インドに相思相愛の王様夫婦がいました。あるとき王様が最愛の奥様に対して「よく考え



てみると、私は最愛のお前より私自身のほうが一番可愛いように思う」とおっしゃいました。すると奥様も「実は私も貴方より私のほうが一番可愛い」と仰いました。そこで王様は「皆が自分が一番可愛いと思ったらこの世は成り立たない。お釈迦様に聞いてみよう」と言って二人はお釈迦様のところに行かれました。お釈迦様はお二人の話が聞かれて「人間はみな自分自身が一番可愛いのです。それでよいのです。ただ自分が一番可愛いということを相手も同じように思っていることを忘れないように」と諭されました。

ここに相手に対する思いやりの心が生まれるのです。自分以外の人に対する愛が始まるのであります。世の中の人々が皆、このような心、「他人の事を思いやり、他人のために尽くす」という心を持って初めてこの世の中が成り立つのであります。自分自身を愛することが出来て初めて人を愛することが出来るのです。そして世の中の人々のことを考えることが出来るのであります。これがとりもなおさず「ロータリーの心」であります。このように「ロータリーの心」は特別なものではなく私たちが大切にしている「四無量心」と同一のものなのです。ただロータリー用語として「奉仕の理念」と表現しているだけの事でありませぬ。

職業奉仕

ロータリーはアメリカ、シカゴで誕生しました。32年間の永きにわたって事務総長を務めたチェスレー R・ペリーはポール・ハリスがシカゴロータリークラブを創設した時を振り返って「シカゴロータリークラブは職業人同士が友情を深めることと、各々の商売を発展させることの二つの目的のために誕生した。この二つの融和が今日の職業奉仕の萌芽になった」と述懐しております。

しかし、この二つを単純に融和させますと「親睦と相互扶助」という単なるエゴの塊のような組織になります。そのようなエゴの塊では、世

界に浸透し、110年もの永きにわたって継続できるものではありません。職業奉仕は、お金を儲けたいという職業人の内なるエネルギーと、お客様のお役に立つという外向きのエネルギーとの葛藤を乗り越えた融和が求められるのです。それが、ひいては自分の職業上の利益に還元されてくるという因縁果律、お金儲けの哲学なのです。

内なるエネルギーと外なるエネルギーの融和は寛恕の心なしには達成できないのです。ポール・ハリスは「ロータリーとは」と問われて一言で表現すれば「寛容と忍耐」と述べたそうです。「寛恕」の心なのです。私たちが古くから大切にしてきた道徳に他ならないのです。「人様のことを考えよう」「他人も等しく愛しよう」というのが「奉仕の理念」という「ロータリーの心」、ロータリーの神髄なのです。このロータリーの心はいくつかの奉仕部門の中でも、とりわけ職業奉仕に必要とされているが故に、ロータリーをロータリー足らしめているのは職業奉仕と言われているのです。

時代を超えたロータリーの心

「ロータリーの心」はこのように日常的、基本的なものですからロータリー誕生以前からも存在し、ロータリーがなくなっても存在し続けるでしょう。江戸時代後期の農政家、思想家、二宮尊徳は「湯船の教え」の中で「湯船の湯を手で自分の方にかき寄せれば、湯はこっちの方に来ようだけれど、みんな向こうの方へ流れ帰ってしまう。これを逆に向こうの方へ押ししてみれば、湯は向こうのほうへ行くようだけれど、やはりこっちの方へ流れて帰る。向こうへ押すことが「仁」であり「義」であり、手前にかき寄せれば「不仁」「不義」になる」と語り、「奪うに益なく、譲るに益あり。これが天理、道理というものだ」と語っています。こんなわけで二宮尊徳翁はロータリアン以前のロータリアンと言われているのです。



ロータリーの変貌と行く末

奉仕の第1世紀を終え、国際ロータリーはロータリアンに「ロータリーの心」を浸透させ、ひいては世間の人に高潔性を以ってなるロータリーとして認知してもらうという初期の目的を達成することに失敗しました。「ロータリーの心」は世間で認知されないばかりか、ロータリアン自身の職業上の不正も相次いでいます。ロータリーの存在すら世間に認知されていない有様です。アインシュタインは語りました「同じことを繰り返しながら、違う結果を期待することは、狂気である」と。かくしてRIは従来の手法を変えて出してきたのが、「戦略計画」、財団の「夢計画」に他ならないのです。「戦略計画」それを支える「夢計画」で訴えていることは、「人道的奉仕活動の重点化と増加」であります。そのための財政的支援、それを可能にする会員増強、それを促進する公共イメージ、認知度の向上を目指したのです。ところが「人道的奉仕」が「職業奉仕」を凌駕してしまったのです。この変貌が行く末を不安にしている現在の現在です。

「犠牲無き奉仕」の落とし穴

最後に一つのことを申し上げたいと思います。ロータリーで行う奉仕活動は会員の皆さんの寄付金で賄われます。ミルトン・フリードマンは言いました「現代福祉社会の虚構の一つは、人の金で善が行えることだ」他人の金を、他人のために使う時には、節約も、効率も考慮されません。ロータリーで行う奉仕活動は本当に、地域、世界のニーズに合っているのかの吟味が大切なのです。ガンジーの7つの社会的大罪の一つに、「犠牲無き宗教」というのがあります。「犠牲無き奉仕」にならないように注意しなければなりません。

思いつくままにロータリーについて語ってきました。御清聴を感謝いたします。





「行って来ました 世界一周旅行！」

鮑 悦 初 会 員

先ほど、「鮑ちゃん、定年に成って一番やったらアカン事やで！行ったら大概別れる！」と、本日ゲストで来られた松田ガバナー補佐から言われました。一昨日、木下先輩から「鮑ちゃん、よう奥さんと一緒に世界一周行ってきたね！？」と感心されました。多くの友人から「おまえ何悪い事したんや！？」と言われました。「私が還暦を迎え、社長を譲ったら、一緒に世界一周の旅行に行こう！」数年前、愛する女房にこんな約束をしたようです！

昨年の4月4日「飛鳥」に乗船してから7月17日までの3ヵ月半、女房と世界一周の船旅をして来ました。

船上ではパーティーなどもあり、相当な荷物に成る事は容易に想像できました！そこで、映画タイタニックで見た様な大きなトランクケースを探しにルイヴィトンのお店に行くと、チョットしたサイズで250万円、大きなサイズだと400万円位だと言われました。そこで、リモアのスーツケースを三つほど買い足し、旅の準備をしていたのに、ある日旅行会社から自宅へダンボール箱が10個ほど届き“旅行中の衣服をはじめ、必要な物を箱詰めして船会社へ送ってください”との事でした！

出発日は、小さなバグーつとパスポートを持って、ポートタワー横の中突堤ターミナルから出国手続きをして、飛鳥 にチェックインし部

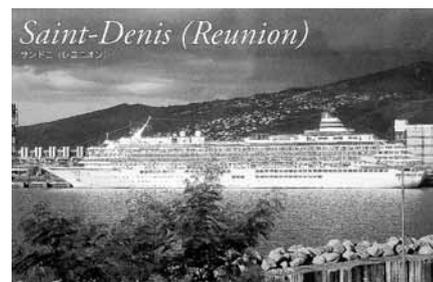
屋に入ると、送った荷物は部屋の隅に積まれていました。スーツケースの購入は無駄でした！

乗船早々避難訓練がありました。その後、家族、友人に見送られ、ブラスバンドの演奏が響き、紙テープが大きな弧を描くと、大きな汽笛を合図に船は離岸して行きました。翌日は船内見学と船内や寄港地での行事などの説明が行われ、本当に船旅が始まった感が湧いてきました。



船での生活は、朝6時半のラジオ体操に始まり、気功、社交ダンス、水泳、ウクレレ、囲碁、手品、朗読、コントラブリッジ、英語、ダーツ、フラダンス、カメラなど色々な教室や講演、パドルテニス、ピンポン、ゴム鳥賊蹴っ飛ばし等色々なゲーム、夕方からのカジノの他、毎夜ジャズや歌、ダンス、ギターなど楽器の演奏、京劇、二胡、古箏、落語や漫才など夜11時半に終わる夜食の時間まで色々なイベント、プログラムが組まれています。そんなプログラムや食事の内容、航海での豆知識や寄港地情報、ドレスコードが書かれた「ASUKA DAILY」が毎日部屋に届き、自由に参加、楽しむことが出来ました。

2013年飛鳥 世界一周のコースは、先ず南シナ海を南下し4月11日はシンガポールに寄港、マラッカ海峡を通りインド洋を渡り、20日スマトラ島東800kmのレユニオン島(フランス領)のサンドニ、そして喜望峰をまわり26、27日は南アフリカのケープタウン、29日はナミビアのウォルスベイ、5月7日はセネガルのダ





カール、11日はモロッコのカサブランカに寄港して地中海に入りました。14日にスペインのバルセロナ、16日にイタリアのナポリ、19日にベニス、21日にクロアチアのドヴルグニク、24、25日はトルコのイスタンブール、27日にギリシャのピレウス、28日にミコノス島、6月2日はポルトガルのリスボンに寄港しました。



そこから大西洋を横断して、10日にアメリカ大陸のボストン到着。12、13日にニューヨーク、17日にキーウエスト、そしてカリブ海を渡り、19日にメキシコのプラヤ・デル・カルメン、22日はパナマのクリストバルに寄港しました。

ここから飛鳥 はパナマ運河を通過してメキシコのアカプルコを目指しますが、私達はパナマ運河を観光した後、オプションで4泊5日のペルー、マチュ・ピチュ観光に参加しました。



先ず飛行機で海拔 3,400 m のクスコに飛び、そこからペルー鉄道の列車で海拔 2,200 m のマチュ・ピチュまで足を伸ばしました。そして27日メキシコのアカプルコに停泊している飛鳥 に合流しました。

この後、太平洋に浮かぶ楽園ハワイに7月6、7日に寄港して、13日に日付変更線を通り、太平洋を横断して16日に横浜、17日に神戸に帰って来ました。

日本の船ですから、食事は和食中心で、時々中華や洋食が入ります。夜食もうどんやお蕎麦、おにぎり等、なじみの物でよかった！何より大浴場があり、一人毎日お風呂で手足を伸ばすとホッとしました。初めは知人もなく不安でしたが、隣室はじめ、船内で多くの友人も出来、誘い誘われ色々な船内のイベントにも参加しました！インターナショナルナイトに誘われた時にはタイ国に割り当てられて、女装してオカマに扮しました。結構船内でも有名人に成ったと思います！後半はワインなどお酒を持ち寄り、毎晩のように酒盛りをして楽しい夜を過ごし、過ぎてしまえばアツと言う間の様な楽しい船旅の日々でした！

皆さん、愛する奥様と是非一緒に世界一周の旅に行ってください！

楽しいですよ！忍耐力がつかますよ！人間修養になりますよ！

ご清聴ありがとう御座いました。



7月22日「KADOKAWA ウォーカー 情報局統括局長の情報編集術」
KADOKAWA ウォーカー情報局統括局長 玉置 泰 紀 氏



9月30日「青少年交換プログラムについて」
青少年奉仕委員長 榊 原 志 朗 会員



8月19日「いのちのハーモニー」
岡 崎 友 紀 氏



「帰国報告 青少年交換プログラムを終えて」
青少年交換派遣生 島 本 佳 奈 さん



9月2日「「一体感」が会社を潰す。
~異質と一流を排除する(子ども病)の正体~」
インディペンデント・コントラクター(独立業務請負人) 秋 山 進 氏



11月4日「文字でわかるあなたの社長力」
書家 砂 川 雅 美 氏



11月11日「米山月間」
米山奨学生 斉 瑤(さいよう)さん



1月13日「New Year Violin Concert」
Violin 駒 木 愛 弓 さん
Piano 木 村 彩 乃 さん



11月18日「まなざしのデザイン」
ランドスケープアーティスト 大阪府立大学准教授 花 村 周 寛 氏



2月3日「ロータリー財団とEND POLIO NOW」
ロータリー財団委員長 中 井 章 詞 会員



12月9日「何苦楚の気持ち～超ポジティブシンキング～」
元オリックス・ブルーウェーブ、セントルイス・カーディナルス 田 口 壮 氏



余韻会 (俳句同好会)

平成二十六年十月一日 於 西村屋 花みかげ

白樺の闇を揺らして霧走る

本郷 桂子

遠き灯のかけりて霧の来るらし

執行 執艸

遠耳に何を語るや虫すだく

高石 潜菴

ジョッキよりこぼれし泡が枝豆に

白羽 子誠

枝豆のうぶ毛に光る塩の粒

壺井 仙岳

霧深し神戸の夜景隠しをり

吉井 聖倅

霧雨に濡れし露天湯飛驒の川

松原 氣宏

朝霧や見なれし山家見えかくれ

池西 清栄

霧晴れて水辺の林現るるかな

神品 平

贈られし酢橘ころがる卓の上

橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十六年十月三十日 於 西村屋 花みかげ

行秋の庭の移るひなりしかな

本郷 桂子

流れゆく雲の速さよ今朝の秋

執行 執艸

ハローウインの仮装に紛れ秋行けり

高石 潜菴

六甲山正面にして秋明菊

白羽 子誠

行秋やエプロン替へて煮物炊く

壺井 仙岳

行秋や家に籠りて雨を聴く

吉井 聖倅

行秋や過ぎゆく時間振り返る

松原 氣宏

行秋や廻る水車の日暮道

池西 清栄

行秋や雲のながれを惜しみをり

神品 平

古手紙ふたたび取り出す虫の夜

橘 恵子



余韻会 (俳句同好会)

平成二十六年十二月三日 於 西村屋 花みかげ

大根煮て母の顔又妻の顔	本郷 桂子
大根を売る店せはし齒科隣り	執行 執艸
初冬やお鈴の余韻ながくなり	高石 潜菴
キャンパスを一線分けて銀杏散る	白羽 子誠
鉢植を陽だまりに置く初冬かな	壺井 仙岳
初冬や騙されに行くだまし絵展	吉井 聖倅
大根も魅力のひとつ里自慢	松原 氣宏
熱つ熱つの大根へ箸を伸ばす夕	香山 道宣
田舎道軒の大根夕日浴び	池西 清栄
大根を洗ふ筧の水白し	神品 平
源助といふ名に引かれ大根煮る	橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十七年一月二十九日 於 西村屋 花みかげ

牡蠣をむく小屋に迫りし殻の山	本郷 桂子
牡蠣船を揺らして過ぎる川蒸気	執行 執艸
古事記まで話は尽きず日脚伸ぶ	高石 潜菴
かき殻のまじりたる鍋磯の湯気	白羽 子誠
たらひ舟揺らし海女の手牡蠣運ぶ	壺井 仙岳
葉牡丹や混み合ふ医院子らくづる	吉井 聖倅
海女小屋の小気味良き音牡蠣焼ける	松原 氣宏
葉牡丹や優しく凜と青空に	池西 清栄
葉牡丹に薄化粧して朝の庭	神品 平
年迎ふ馴れたる暮らしそのままに	橘 恵子



絵と文 小倉 宗夫

「ワインの街 ボーヌ」

10年前の2005年、我がクラブのワイン好きの有志10人ばかりが、ブルゴーニュへ出かけたことがある。10日間かけて名だたるワイナリーや、星付きのレストランで、昼夜を問わず、試飲痛飲。暴飲暴食。リヨンから始まって、ボーヌ、ディジョン、ついでにシャンパーニュまで足を延ばして、パリに着いた時には全員グロッキー。ワインもう沢山と、最後のディナーは、ベトナムの酒と料理で締めくくったのは、まことに結構でした。

この絵は、ツアー中ただ一度の自由時間にホテルを出て、ボーヌの街でスケッチとスナップをしたものを、帰って油絵にしました。誰かが「この絵は赤ワインの香りがするね。」と云ってくれました。

CONTENTS

職業奉仕月間	1
例会卓話によせて	2
米山月間	4
新入会員自己紹介	6
日帰り家族旅行	11
社会奉仕委員会「青陽東養護学校でのコンサート」	13
青少年奉仕委員会「王子動物園絵画教室」	14
忘年家族会	15
神戸東 RC 震災 20 年を迎えて	17
ロータリーの理解推進月間	20
会員寄稿(行ってきました世界旅行)	23
例会スナップ	25
余韻会	27

編集後記

今年度の2回目の会報をお届けいたします。
今年度もはや、半期が経過し、乙守年度のさまざまなコンテンツが盛りだくさんの内容になっています。
卓話記事等に加え、スナップ写真も多く取り入れるようにしました。
神戸東ロータリークラブの会員の皆様、および関係者の皆様には、原稿依頼や、写真撮影等に関しまして多大なご協力をいただきましたこと、ここに御礼申し上げます。
最終号は2015年7月頃の予定にしています。

雑誌会報委員長 田中 義明